

トップニュース

南越谷地区に折り畳み式ごみ集積所・自治会と企業が協力しカラスの被害解決

2020. 11.30 (越谷市)

ネコやカラスに家庭ごみの集積所が荒らされるのを解決し、きれいなまちに | |。越谷市南越谷地区の自治会が民間企業と共同で独自の「クリーン・ごみステーション」の取り組みをスタートした。電子メーカー「三井電子」（本社・東京都新宿区）が開発した折り畳み式のごみ箱を無料で設置し、効果を上げているもの。ごみ箱は鉄製のフレームにグリーンネットが覆われ、上部にふたの付いたもので、かごの中に可燃ごみなどを入れれば、ふた付きのため、動物が侵入できない。無料化できたのは、かごの最上部のプレートに企業広告を入れたため。地元、南越谷の中央住宅（品川典久社長）が全面協力し、広告料を負担し実現した。全国初の試みで住民から「衛生的で景観も良くなった」と好評で、新しいモデルとして注目されそうだ。



「クリーン・ごみステーション」のきっかけは、三井電子の社員が、自治会のごみステーション管理担当になったこと。ごみ出しの日はいつもネコやカラスにごみが荒らされ、周辺が汚れてしまうことを知り、「何とかできないか」と考えた。試行錯誤した結果、板金技術を生かしてかご型のごみ箱を考案した。鉄製フレームに緑色のネットを付けるが底の部分はなく、鉄製のふたが付き、ごみ出しのない日は、折りたたんで、スペースを取らないのが特徴。1台の大きさは高さ177㍓、幅146㍓、奥行き60㍓。壁面に設置し、折りたたむと奥行き5㍓になる。

越谷市出身の社員が担当だったため、地元の南越谷地区の自治会に呼びかけたところ、「画期的なアイデア」と好評だったが、問題は費用だった。単独の自治会では予算がないため、購入することは困難。そこで考えたのが上部に広告枠を設けて、企業からPRのための広告費を徴収し、自治会への無料提供を実現した。中央住宅に呼びかけたところ快諾。1台あたり月6500円（5年契約）の広告費を負担してくれることになった。

10月から、南越谷地区をモデルに実施。同地区連合自治会に加盟する27自治会中10自治会が12月までに設置することになった。既に設置された自治会もある。元柳田町自治会は1か所に2台設置した。同自治会の川田皓司（かわた こうじ）会長（80）は「以前はカラスに荒らされていましたが、設置後は荒らされることもなく、ごみ集積所がきれいになって良かった。また、ふたが付いているのでネットに触れることなく、ごみを出せるので衛生的で、片付けも楽。景観も良いので大変助かっています」と喜んでた。

収集業者からも「カラスの被害がなくなり、作業が楽になりました。また、ごみステーションのふたを上げるだけで、ごみの収集ができるので、早く作業できます。もっと市内全域に設置されると、まちもきれいになりますね」と歓迎の声が上がっている。

広告掲載に協力した中央住宅の齊藤辰彦・取締役は「私たちとしても、ごみの散乱が減少し、地域環境の美化にもお役に立っているのはうれしい。SDGsの取り組みの一環としても、クリーン・ごみステーションの導入を進めていきたい」という。

12月中に南越谷地区に47台のステーションが設置される見込み。三井電子第1営業部の渡辺達也主任（51）は「ステーションの設置が社会貢献活動の一環となり、地域の活性化につながれば」と期待している。

[>戻る](#)

